

OpenText Actuate Information Hub 採用事例：富士ゼロックス 株式会社 様

富士ゼロックスダイレクトのサービス向上と 運用コスト削減を両立させる BI レポーティングプラットフォーム

採用による効果

- 1:旧システムの帳票や画面デザインが比較的簡単に踏襲でき、移行に関わる工数が想定より低く済んだ
- 2:処理スピードが約2倍になり、今後増大が見込まれる顧客ニーズに応えられるキャパシティが確保できた
- 3:帳票・レポートの改修や新規作成に関わる作業工数を大幅に削減できた



富士ゼロックス提供

OpenText Actuate Information Hub カスタムプロフィール



社 名：富士ゼロックス株式会社
事 業 内 容：デジタル複合機、レーザープリンター、業務用印刷機、および周辺機器、サプライ品の製造・販売。総合的なドキュメントソリューションの構築、機器の保守サービス、クラウドサービス、アウトソーシングサービスの提供。
本 社 所 在 地：東京都港区赤坂九丁目7番3号
社 員 数：46,945名 (2015年3月期)
8,530名 (2015年3月期 単独)
U R L：http://www.fujixerox.co.jp/

採用の背景

システムのパフォーマンスアップと運用コスト削減の両立

弊社では、デジタル複合機などの機器、サービス、ソフトウェアなどの商品をお使いになられているお客様向けに「富士ゼロックスダイレクト」という会員制（無料）のポータルサイトを提供しています。「富士ゼロックスダイレクト」は、会員の方がログインされると、グラフ付きのレポートとして機器の利用状況が確認できたり、電子請求書の確認・ダウンロードができる、Webブラウザベースのサービスなのですが、このシステムを2014年末を目標に、ランニングコストの低減と性能向上を目的としたリニューアルを実施することがきっかけとなり、新しいレポーティングエンジンの選定を開始しました。

リニューアル前、利用レポートはデータソースから表やグラフを生成するエンジンを独自にスクラッチで開発、電子請求書（PDF）の生成は既存の電子帳票製品を組み込んで開発していました。リニューアルするシステムの要件定義を、この2つのシステムを共通のプラットフォーム上で稼働させることをベースに策定していくことにしました。

近年、請求書の授受を紙から電子版（PDF）に切り替えたいと要望されるお客様が増え、利用状況などのレポートも、集計項目などの内容の追加やグラフデザインについてエンハンスのリクエストを頂くようになりました。

従来のシステムでは、処理スピードや運用コストの面で限界が見えていたので、次のシステムに期待したスペックやベンチマークは、「性能の向上」と「帳票やレポートのデザインの自由度と使い勝手」および「トータル運用コストの低減」ということとなります。



富士ゼロックス株式会社
ソリューション・サービス開発本部
ソリューション開発部
マネージャー 吉村 俊秀 様

製品選定のポイント

秀でていたデザイン構築の自由度の高さと使い勝手

製品選定にあたり、帳票やレポート出力の共通プラットフォームになり得るBI系レポートツールを、OpenText Actuate Information Hub (以下iHub) 含めて5製品選定し、実際に使ってベンチマークテストをすることになりました。

まず「性能の向上」についてですが、電子請求書は毎月おおよそ10万件をバッチで生成し、お客様がオンデマンドでダウンロードできるように用意しておかなければなりません。iHubは旧システムとの比較で約2倍のスピードで処理が完了することがわかりました。これで今後増大するであろう請求書の電子配布に余裕を持って対応することができます。

もう一つの「帳票やレポートのデザインの自由度と使い勝手」の評価では、iHubが一歩秀でていました。システムのリニューアルを理由に、請求書やレポートのデザイン・仕様を変えるわけにはいきませんでしたので、「旧システムのデザイン・仕様を忠実に再現できるか？」という課題を掲げたのですが、iHubは他のツールと比較してデザイン時の自由度が高く、しかも使い勝手が良かったので、要求通りのデザイン・仕様のアウトプット用テンプレートを短時間で作成できたのです。

これは、システム移行時の一時的なメリットだけではなく、帳票・レポート出力サービスを拡充していくという、富士ゼロックスダイレクトのミッションを遂行していく上でも、テンプレートデザインの構築工数が小さく抑えられるiHubは、大いに魅力的でした。

ご採用後の効果と今後の展望

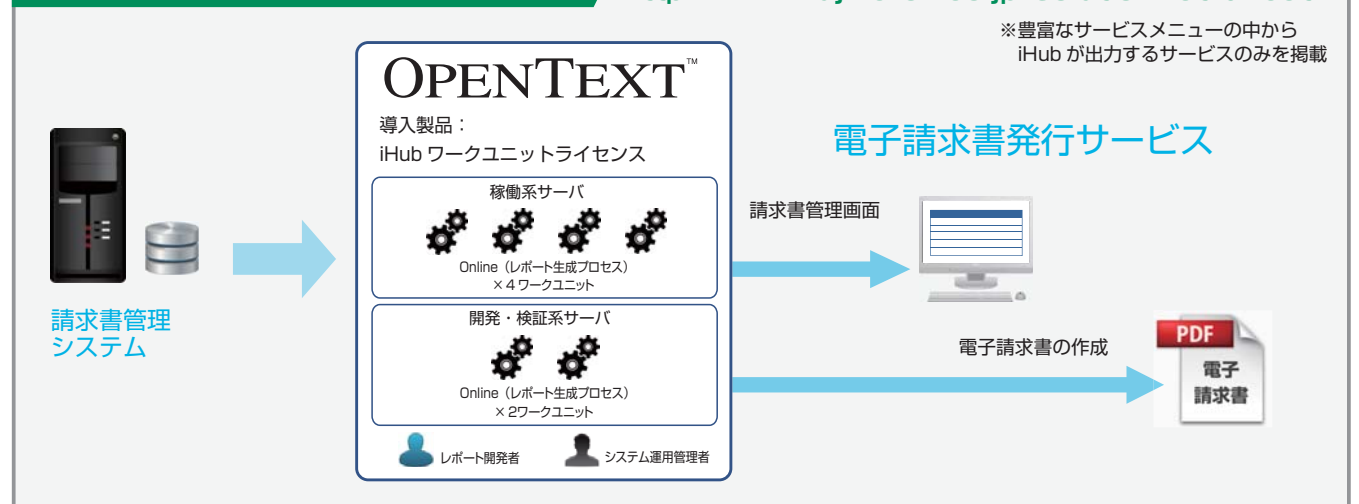
作業効率アップでランニングコストも低減

製品選定時の評価ポイントと重複しますが、帳票・レポートテンプレートを新規に作成する時だけでなく、一度作成したテンプレートを改修する工数も、確実に少なくなっています。これは、デザインツールの使い勝手だけではなく、iHubが実装しているJava Script APIや各種WebサービスAPIや、データソース取り込み時の豊富な対応ファイル形式によるものと実感しています。

富士ゼロックスダイレクトの今後の展望としましては、Webブラウザベースで一元的に提供、管理ができる帳票やレポートの種類と対象サービスを増やし、更なるサービスの向上を目指すことであり、拡張性・可用性・汎用性のあるiHubを、BIレポートプラットフォームとして活用していくつもりです。

そこで、今後iHubに望むこととして、システムの利用実態に合わせた、柔軟なライセンス形態での提供や、データの暗号化機能の実装があります。また、エアーの保守体制については、導入決定からポータルサービスのサービスインを経て今日に至るまで、パッチプログラムの提供など、迅速かつきめ細かく対応してもらっているので、特段要望は無いのですが、製品関連に限らず、BIに関する有益な情報の提供元になってもらえれば嬉しいですね。

富士ゼロックスダイレクトのシステム概略図

<http://www.fujixerox.co.jp/solution/ict/direct/>


富士ゼロックス株式会社様、ご協力大変ありがとうございました。

Actuate Information Hub は、OpenText の登録商標です。
Actuate 社は OpenText 社の傘下となり、メーカー名および製品名が変わりました。



株式会社エアー

東京 〒106-0032 東京都港区六本木2-2-8
TEL:03-3587-9221 FAX:03-3587-9238
本社 〒565-0851 大阪府吹田市千里山西5-31-20
TEL:06-6368-6080 FAX:06-6368-6081
URL <http://www.air.co.jp/>